

Time Table 4.18 Sat → 4.24 Fri

4/18 土	11:00 長編 『浮浪調律』(77分)	12:55 短編 終わらぬ日々の記録(97分) 『水平へ漕ぎだす』+ 『マイブレイス— 保養という選択』	15:10 人類学 『カルロスのレシピ』(107分)	17:35 人類学 『翁丁 The Last Tribe in China』(135分)
4/19 日	11:00 長編 『村で生きる』(102分)	13:20 短編 生きる実感(77分) 『because time is life』 +『メインクエスト2』	15:15 特別 『香港時代革命』(117分)	17:50 長編 『紅線 Red Line』(143分)
4/20 月	12:00 長編 『UNVOICED』(86分)	14:05 特集 台湾記録片(108分) 『火種を再燃させる』+ 『いつの日にか帰らん』		
4/21 火	12:00 長編 『九州大学 彦山生物学実験施設』 (116分)	14:35 短編 あなたのそばに(70分) 『リポンドールと生きる』+ 『Never Give Up それでもラジオ!!』		
4/22 水	12:00 長編 『バルパティ・パウル ～黄金の河を渡って』 (109分)	14:25 人類学 『マサイ・エウノ』+ 『天幕の下で』(79分)		
4/23 木	12:00 短編 戦争の記憶を継ぐ(76分) 『クリミア』+『森、すきま』+ 『沖縄 戦没者遺骨収容 2025』 +『最後の戦犯』	13:55 短編+長編 『Johnny』+『鶴になる』 (77分)		
4/24 金 アンコール	12:00 長編 『紅線 Red Line』(143分)	15:00 人類学 『カルロスのレシピ』(107分) +大阪観客賞発表		

一般:1,600円/シニア:1,300円
 学生:各1,000円/小学生以下:700円
 会員:1,100円/水曜サービスデー:1,300円
 その他、劇場各種割引あり(劇場公式サイトを確認ください)
 ※オンライン販売:ご鑑賞日の7日前の9:00から上映開始60分前まで
 ※劇場窓口販売:ご鑑賞日の7日前の劇場開館時間より

監督による舞台あいさつを予定!(オンラインを含む)

詳細は公式サイトやSNSでご確認ください
 ✕ tdff-neoneo.com [f tdff.neoneo](https://www.facebook.com/tdff.neoneo)
 @TDFD-neoneo

特別鑑賞券発売中! 2回券:2,600円

※劇場窓口および映画祭事務局で販売
 (映画祭期間中も販売しますが、売り切れ次第販売を終了します)
 ※Web予約では使用できません。窓口にてお座席を指定ください

大阪市淀川区十三本町1丁目サンボードシティ5F
 阪急・十三駅下車 西口より徒歩5分

シアターセブン
 06-4862-7733
 theater-seven.com

【東京ドキュメンタリー映画祭事務局】主催:neoneo編集室|後援:一般財団法人 宮本記念財団|協賛:エトノスシネマ|協力:三叉路フィルム、台湾映画同好会
 問い合わせ先メール:tdff.neoneo@gmail.com(東京ドキュメンタリー映画祭事務局)



東京

ドキュメンタリー

映画祭 Tokyo Documentary in Osaka

in OSAKA

「東京ドキュメンタリー映画祭2025」の
 ベストセレクション!

お客様の投票で決定する「大阪観客賞」もあります

日々変動する
 世界の“生”を目撃せよ!

2026 4.18 Sat → 4.24 Fri
 大阪シアターセブン

ごあいさつ

今年も「東京ドキュメンタリー映画祭 in OSAKA」を開催する運びとなりました。

昨年12月に開催された東京上映の受賞作、話題作が中心のベストセレクションですが、貴重な「人類学・民族映像部門」や、好評の特集上映「台湾記録片」の上映など、多彩なラインナップをご用意しました。混迷を深める世界ですが、その中で日々を生きる人々の息づかいを記録し続ける作り手に敬意を表しながら、ドキュメンタリーならではの「生」の刺激を、皆様と分かち合えれば幸いです！

佐藤寛朗（プログラマー）

長編部門コンペティション

長編部門 観客賞
『浮浪調律』
 監督=今成夢人/2025年/77分/日本



4/18 11:00

普段は故郷の富山県で林業に従事するミュージシャン、W.C.カラス。酒を愛し、客に媚びない独自の音楽性で知られる彼は、やがて浪曲とブルース／ロックンロールを組み合わせた「ローキョクンロール」の制作に没入していく。60歳を超えても変化を恐れず、己の眼差しで時代と対峙しようとするひとりの男の肖像が描かれる。

『UNVOICED』
 監督=北鹿/2025年/86分/日本



4/20 12:00

コロナ禍を経験した、中国・武漢の住民8人へのインタビュー。中国ではコロナ禍について公に語る事が許されておらず、「あの時」は無かったかの様に忘れられようとしている。リスクのある中で「あの時」の苦しみと喪失を語る住民たちの声は、単なる記録を超え、忘却への抵抗、言論統制への反発となって国境を越える。

『バルパティ・バウル〜黄金の河を渡って』
 監督=阿部櫻子/2024年/109分/日本



4/22 12:00

インド・ベンガル地方、歌う修行の伝統を持つ吟遊行者「バウル」を30年以上続けてきたバルパティ・バウルが来日し、東北など、日本の修行文化が息づく地で奉納演奏を行った。インドの最高階級に生まれながらも、パウルの道を歩んできた彼女が日本で出会った新たな“行”とは？彼女の歌声が、私たちの未来を照らし出す。

※大観観客賞について（4/18-23まで）
各コンペティション部門の上映作品のうち、お客様の投票で一番支持を得た1作品に、「大観観客賞」が贈られます。会場配布する投票用紙の記入にご協力をお願いします。

長編部門 準グランプリ
『村で生きる』
 監督=小林瞬、中村朱里/2024年/102分/日本



4/19 11:00

石橋義正監督の劇映画「唄う六人の女」が撮影地にもたらした変化を、一年半にわたり追ったドキュメンタリー。「自然との共生」をテーマに京都・奈良で制作された同作の影響を、映画撮影から上映まで、市職員や関係者の姿を通して描く。地域社会の中で映画はどのように共鳴し、人々の意識や行動に変化をもたらしたのか。

『九州大学 彦山生物学実験施設』
 監督=児玉公広/2025年/116分/日本



4/21 12:00

福岡県・英彦山の中腹にある「九州大学彦山生物学実験施設」を、4年にわたって取材する。90年近く手入れをされながら、現在も大切に使用されている施設の歴史と、生息する多様な昆虫たち、そして施設に集う虫を愛する若き研究者たちの熱い思いをていねいに描く。大人も子供も彦山に行きたくなる魅力に溢れた一本。

長編部門 グランプリ
『紅線 Red Line』
 監督=佐藤充則、平野愛/2024年/142分/日本



4/19 17:50
4/24 12:00

「紅線（レッドライン）」とは、越えてはならない、あるいは譲れない一線のこと。2019年の民主化運動の後、香港では国家安全維持法が施行され、言論の自由が急激に奪われ、民主派の新聞は次々と営業停止に追い込まれた。それでも取材を続けようとする記者たちの3年間の葛藤を記録する。完成後、佐藤は急逝し遺作となった。

長編＋短編部門コンペティション

『Johnny』＋『鶴になる』



4/23 13:55

『Johnny』
監督=長谷川三四郎/2025年/32分/日本

『鶴になる』
監督=島田拓空也/2025年/61分/日本

震災後も営業を続ける岩手県・陸前高田市のジャズ喫茶に流れる、店主と常連の“日常の時間”を記録した『Johnny』。大阪・ミナミに一軒だけ残る芸妓がもてなすお茶屋に飛び込んだ見習いが、作法や稽古に苦戦しながら芸妓を目指す『鶴になる』。対照的な二つのお店で展開される、女性たちの安らぎと華やぎの記録。

短編部門コンペティション

終わらぬ日々の記録
 4/18 12:55



『水平へ漕ぎだす 辺野古海上行動と裁判闘争』
監督=吉岡千絵/2025年/38分/日本

短編部門 準グランプリ・観客賞
『マイブレイス —保養という選択』
 監督=渡辺織也/2025年/59分/日本

辺野古の米軍基地建設に抗議するカヌー隊と、抗議中に起きた事故の裁判を描く「水平へ漕ぎだす 辺野古海上行動と裁判闘争」。岡山県で、福島第一原発事故の罹災者を一定期間受け入れる「保養」に密着した「マイブレイス-保養という選択」。メディアで報じられなくても続く日々を生きる人々の、思いや葛藤に向き合った2本。

あなたのそばに
 4/21 14:35



『リポンドールと生きる』
監督=二階堂萌花/2024年/10分/日本

『Never Give Up それでもラジオ!!』
監督=松永安浩/2025年/58分/日本

リアルな赤ちゃん人形「リポンドール」を携え愛しむ3名の女性が、率直な心情を明かす『リポンドールと生きる』。29年動めた局を追い出されたラジオDJ ジェイムス・ヘイブンスが、自前でFMラジオ局を作るまでの壁を描いた『Never Give Up それでもラジオ!!』。積み重ねられたインタビューが、必要とすること、されることの意味を問う。

戦争の記憶を継ぐ
 4/23 12:00



『QIRIM (クリミア)』
監督=カテリーナ・フラムツォク/2024年/10分/ウクライナ

『森、すきま』
監督=チェ・イェリン(崔藝隣)/2025年/16分/日本・韓国

『沖縄 戦没者遺骨収容2025 —ボランティアの組織的調査—』
監督=宮ゆふき/2025年/25分/日本

『最後の戦犯—残された手記—』
監督=福本日和/2025年/25分/日本

戦地に赴いたクリミア出身アーティストのビデオレポート「クリミア」。群馬県による「朝鮮人追悼碑」撤去問題にある意識の断層を詩的に問う「森、すきま」。今なお続く遺骨収集の意外な側面をみる「沖縄 戦没者遺骨収容2025」。終戦直前、米兵捕虜が処刑された「油山事件」実行者の葛藤をひもとく「最後の戦犯」。戦争の本質が、時を超え交錯する。

生きる実感
 4/19 13:20



『because time is life』
監督=天野澄子/2025年/32分/日本

短編部門 グランプリ
『メインクエスト2 ～穢れなき負け犬の通吠え～』
 監督=上原源太/2025年/45分/日本

ALS（筋萎縮性側索硬化症）を患い自宅で暮らすさゆりと、重度訪問支援者として彼女の暮らしに寄り添うまき。彼女たちの日々の楽しみや社会とのかかわりを描いた『because time is life』。難攻不落の“悪魔のレース”に挑み続けるプロトレイルランナーの挑戦を追った『メインクエスト2』。それぞれに灯る命の輝きを、カメラが捉える。

『マサイ・エウト』& 『天幕の下で』
 4/22 14:25



『マサイ・エウト』
監督=キレ・ゴダール/2025年/34分/ケニア

『天幕の下で』
監督=ハレー・モーリン/2025年/45分/カナダ

ケニアで約20年に一度行われる、マサイ族の成人戦士への通過儀礼「エウト」と、カナダ・アルバータ州で行われる、ネイティブアメリカンの伝統的な祭り「パウワウ」をそれぞれ記録した作品。儀礼に挑む若者の繊細な表情や、祭り自体が持つエネルギーをとらえた多様で迫力あるカメラワークは、スクリーンに映えること間違いなし。

特集上映「台湾記録片」
 4/20 14:05



『火種を再燃させる』& 『いつの日にか帰らん』
 4/20 14:05

『火種を再燃させる—1900～1907年のトバ戦争—』
監督=曾宇平(ベヒュー・マサオ)、高俊宏(ガウ・ジンホン)/2025年/53分/台湾

『いつの日にか帰らん』
監督=楊孟哲(ヤン・モンチー)/2022年/55分/台湾

日本統治時代の初期、伝統法を守りながら7年にわたって抵抗した先住民タイヤル族の知られざる戦いを描いた『火種を再燃させる』。第二次世界大戦に従軍し、終戦後3年半にわたってシリアに抑留された台湾人の元日本兵の、波乱の人生の最終章を捉えた『いつの日にか帰らん』。複雑な日台関係史の一断面が見える2本。

人類学・民俗映像部門コンペティション

人類学・民俗映像部門 準グランプリ・観客賞
『カルロスのレシピ』
 4/18 15:10
4/24 15:00



監督=青木敬 長良将史/2025年/108分
カーボベルデ・日本

カーボヴェルデ北西部のサンヴィンセンテ島。アルコールと薬物依存に翻弄されながら日々を生きるカルロスの背後にあるのが、カーボヴェルデに深く根ざした感情「ソダデー」。カルロスの声と記憶、そして音の風景をとらえることで、奴隷制の時代から音楽を通してこの国に受け継がれてきたソダデーの一端を映画は映し出す。

人類学・民俗映像部門 グランプリ (宮本亜太郎賞)
『翁丁 The Last Tribe in China』
 4/18 17:35



監督=劉春雨(リウ・シュンウ)/2024年/135分/日本

中国雲南省、ミャンマー国境近くにある少数民族ワ族の部落「翁丁(オンデン)」を、10年に渡って記録する。「中国最後の伝統集落」と呼ばれ300年近く続いてきた生活だが、政府の政策で村人は移住を余儀なくされ、古い部落は観光開発がなされた。やがて村で、壊滅的な火災が起き…。失われた村の暮らしがたつぷり描かれた力作。

特別上映
 2023 長編部門 グランプリ
『香港時代革命』
 監督=佐藤充則、平野愛/2022年/117分/日本



4/19 15:15

2019年、香港では自由と民主化を求める大規模な抗議デモが勃発。警察の暴力に抵抗するデモ隊を、市民や学生の立場で支持し、撮影する人々がいた。しかし破壊行為への反感から政府支持の市民も現れ、デモは行き詰まる。分断の進む中、もがきながら記録を続けるトラック運転手や学生記者に密着し、激動の香港に生きる人々の姿を見つめる。